

## 取扱いの趣旨

酸素が存在する部位から採取した検体に対する嫌気性培養加算の算定は、原則として認められない。

## 支払基金が公表している取扱いの全文

### 【検査】

《令和6年11月29日》

### 370 検体別の嫌気性培養加算の算定について

#### ○ 取扱い

① 次の検体に対するD018の注1に規定する嫌気性培養加算の算定は、原則として認められる。

- |                       |                                  |
|-----------------------|----------------------------------|
| (1) 経皮的経気管吸引物、経皮的肺穿刺液 | (2) 気管支鏡下採取材料（ProtectedBrush付着物） |
| (4) 腹水                | (5) 子宮頸管分泌物                      |
| (7) ダグラス窩からの検体        | (8) 中耳穿刺液                        |
| (10) 髄液               | (11) 閉鎖性の膿                       |

- |                        |
|------------------------|
| (3) 胸水                 |
| (6) 子宮分泌物              |
| (9) 血液                 |
| (12) C A P Dカテーテルからの排液 |

② 次の検体に対するD018の注1に規定する嫌気性培養加算の算定は、原則として認められない。

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| (1) 喀痰          | (2) 咽頭液   |
| (4) 口腔採取物       | (5) 胃液    |
| (7) カテーテル尿      | (8) 尿道分泌物 |
| (10) 皮膚（開放的分泌物） |           |

- |          |
|----------|
| (3) 鼻腔液  |
| (6) 排泄尿  |
| (9) 腔分泌物 |

#### ○ 取扱いを作成した根拠等

嫌気性培養は、酸素が存在する環境では増殖できない偏性嫌気性菌を検出するための検査である。偏性嫌気性菌が存在する部位（嫌気性環境）から採取した検体を用いて嫌気性培養を実施した場合に有用であり、対象となる検体及び菌種は多岐にわたる。一方、酸素が存在する部位から採取した検体を用いて実施した場合の診断としての正確性は低いと考えられる。

以上のことから、上記①の検体に対する嫌気性培養加算の算定は、原則として認められるが、上記②の検体に対する算定は認められないと判断した。

なお、喀痰については、口腔から採取した場合は認められないが、気管切開口から採取した場合は認められる。

## グラフの見方

### 1 棒グラフ(該当レセプトの審査結果)

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト  
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

### 2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、  
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

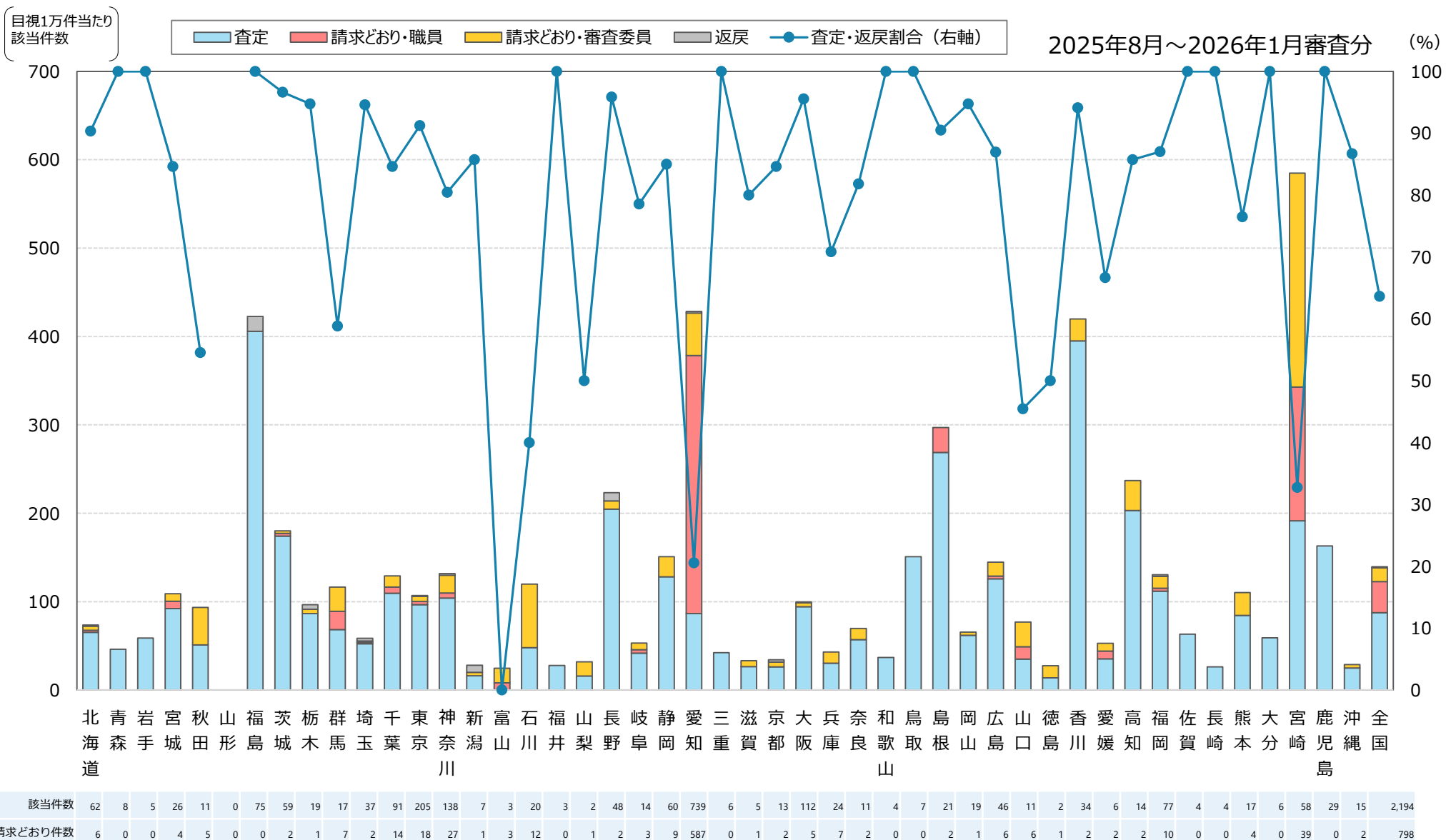
## 審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 63.63%
- 検証対象都道府県 22

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	富山、愛知、宮崎、石川、山口、山梨、徳島、秋田、群馬、愛媛、兵庫、熊本、岐阜、神奈川、奈良、宮城	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	愛知、宮崎、群馬、山口、愛媛、宮城、富山、千葉、神奈川、岐阜、福岡、広島	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	宮崎、石川、愛知、秋田、高知、山口、群馬、熊本、静岡、神奈川、富山、山梨、広島、徳島、福岡、千葉	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	2,194件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	1,396件
検証を必要とする審査	請求どおり	798件



【該当件数】 取扱いの趣旨に該当したレセプト件数